

原水爆禁止世界大会の感想

8月はじめに、広島で開かれた原水爆禁止世界大会に参加した、清瀬小児病院分会の大場さんの感想を掲載します。斉藤さん(府中病院)、楢山さん(清瀬小児病院)、山本さん(療育センター)の感想は、9月の「えいせい」速報に掲載しました。

原水爆禁止世界大会に参加して

清瀬小児病院分会

大場 たかね

今回、原水爆禁止世界大会に初めて参加することが出来たことは、世界平和について考えるとても良い機会となりました。私は、今まで広島を訪れたことはなく、広島、長崎へ原子力爆弾が投下されたことについても、教科書での知識しかなく、原水爆禁止世界大会というものがあることも今回初めて知りました。

今回、大会に参加してまず国内はもちろんのこと、海外からの参加者も非常に多いということに驚き、核兵器廃絶が世界的な認識となっていることを実感しました。一方で、世界で唯一の被爆国である日本に住んでいながら、核兵器について今日までほとんど考えずに生きてきたことを恥ずかしく思いました。

3日間の中で、様々な場所を訪れ、多くのことを学びましたが、中でも一番印象に残っているのは原爆ドームと資料館です。日差しの照りつける中、原子力爆弾が投下されたあの日もこんなに暑かったのかななどと考えながら、原爆ドームや記念碑を歩き回りました。教科書の写真などで原爆ドームを見たことはありましたが、実際に見て、写真では伝わらない雰囲気に圧倒されました。当時のまま残されている、ボロボロに崩れた壁や、骨組みが丸出しの屋根が原子力爆弾の破壊力を物語っており、資料館では、原子力爆弾投下へ至った流れや、被爆者の皮膚や爪など思わず目を背けたくするような展示品の数々から、戦争の悲惨さを実感しました。また、原子力爆弾による今も後遺症に苦しんでいる方々が多くいることも学びました。

今回、大会に参加しなかったら、一生、原水爆について考えることなく過ごしていたと思います。今、原子力爆弾を体験した方達が一生懸命に後世に原子力爆弾の悲惨さや平和の尊さを伝えようとしてくれています。3日間の体験を通して、この平和な時代に生まれて、本当に良かったと心から思うとともに、憲法改正の案などで平和が脅かされている今、歴史を風化させないようこれからは自分もその思いを受け継いで同じ過ちを繰り返さないよう呼びかけていかなければならないと感じました。

大会に参加させていただきありがとうございました。